

### 確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

<b>中学校区におけるめざす子ども像</b> <b>「確かな学び」</b> 他者の意見を聴き自分の考えを広げたり深めたりすることができる子ども <b>「豊かな心」</b> 正しい人権意識を持って行動し、自他の良さを認め合うことができる子ども <b>「健やかな体」</b> 心身の健康をはぐくみ、自他の生命を大切にできる子ども	「教育目標:知・徳・体 調和のとれた人間性豊かな生徒の育成」 「校訓:自立:協調:剛健」
---	---

堺市立津久野中学校

校長 中曾 一彦

<b>令和6年度 重点目標</b> <b>『子どもたちが自分の良さや可能性に気づき、多様な他者と協働しながら、社会の変化に柔軟に対応できるよう、保護者・地域・学校が一体となり総合的な学力を育成する』</b>
--

<b>「確かな学び」の現状</b> 各家庭が本校の教育活動にご理解、ご協力をいただき、すべての学年において、落ちついた環境で概ね静謐な教育活動が展開され、生徒は積極的に授業に参加し、前向きに学習に取り組んでいる。また、授業では積極的にICTを活用するなど探究的に学びを実現し、主体的に学習に取り組む子どもの育成につとめている。 例年、全国学習状況調査や大阪府チャレンジテストにおいても一定の水準を保っている。 本校は英検の準会場として年2回に受験をする機会があり、年間150名以上が受験している。	<b>「豊かな心・健やかな体」の現状</b> 体育大会、合唱コンクールまた各学年での総合の時間を利用したSDGsの取り組みを通して、「豊かな心・健やかな体」を育む教育活動を進めることができている。 コロナ禍の影響で体を動かすことが少なくなった傾向があり、本校では文部科学省の授業時数特別校の指定を受け、1年生の保健体育の授業時間を年間8時間増やし、活発に身体を動かす期間を増やすことに努めている。
---	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)					
								自己評価	学校関係者評価				
確かな学び	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着</li> <li>習熟度別少人数授業の充実</li> <li>生徒用タブレットの活用</li> <li>主体的に学びに向かう力を育成し、自ら課題を見つけ、取り組むことができる力をつける。</li> <li>課題を解決しようと、粘り強く学習に取り組む心を育成する。</li> </ul>	英語と数学において少人数(習熟度別)指導の実施。	英語・数学の苦手な生徒を減らし、10点未満の生徒をなくす。	実施結果	定期考査毎	B	B	難しくなるにつれて、10点未満は増加しているが、各教科の減少させるよう課題を見直している。	B	10点未満が増加であるが、引き続き少人数指導を実施していくのがよい。基礎問題の出題で「やったら出来る」という意識に！結果は得点ではっきりわかるので、評価はわかりやすいです。少人数指導は引き続き指導を頑張してほしい。		
			ICTを活用した授業におけるCBTforSCHOOLの単元別テストでの各教科の結果	各調査の結果で堺市平均を上回る。	各テストの結果	随時	-	B	B	数学で実施。堺市の他の中学校が未実施のため、比較できず。	B	堺市の平均を上回る程度ならよいと思う。他校に先駆けて積極的に取り組む姿勢が評価される。	
			全国学テやチャレンジテストにおける各教科の結果。	各調査の結果で大阪府平均を上回る。	各テストの結果	随時	A	A	A	A	1年生のチャレンジテストでは全教科、2年生では国社英で平均を上回った。	A	大阪府の平均を上回る程度ならよいと思う。来年度にも期待します。
			授業や行事などの取り組みを通して、まちがいをおそれず、主体的に学びに向かう力を育成する。	「難しいことでも、失敗をおそれず挑戦する。」「やると決めたことは、最後までやりとげる。」「各項目肯定的評価80%以上	学校教育アンケート	年度末	A	B	B	B	それぞれ「失敗を恐れない」70.6%、「最後までやる」92.7%である。1年生において「失敗を恐れない」の項目が肯定的評価が低かった。	B	回答の割合の減少は誤差の範囲。「失敗を恐れない」ではなく、失敗した後のフォローなどや立ち直り方を学んでほしい。失敗しても最後までやりきることも大切。パーフェクトでなくてもよい。行事などみんなで楽しく、取り組む姿は気持ちいい。
授業の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中9年間を見通した教育活動の質的向上に向けたカリキュラム・マネジメントを推進。</li> <li>生徒の「なぜだろうと考え続ける力」を伸ばす授業を展開する。</li> <li>英語検定へのチャレンジ。</li> </ul>	●★小中9年間を見通した見据えたグランドデザインを基にしたカリキュラムマネジメントについての研修を行う。	「小中9年間を見通したカリキュラムマネジメントについて職員が共通認識を持つ。」肯定的評価95%以上	学校教育アンケート	年度末	C	C	C	「小中9年間を見通したカリキュラムマネジメントについて職員が共通認識を持つ。」において肯定的評価が68.3%である。	C	共通認識を持てるような研修をして、頑張してほしい。		
		●★研究授業を年2回行う。担当教科以外を参観することで、生徒の思考力を刺激する授業展開になっているかを多方面から議論し、授業改善につなげる。	「お互いの授業を参観し、高評しあい授業改善をおこなった。」肯定的評価 80%以上	学校教育アンケート	年度末	A	A	A	A	「お互いの授業を参観し、高評しあい授業改善をおこなった。」について肯定的評価が97.6%である。	A	肯定的評価は妥当。担当教科以外を参観するのは参考になる。全学年の授業で子どもたちが各々意見を発表しているのがよい。	
		●中学校を英語検定の準会場として英検受験への障壁を軽減する。	英語検定の受験者数が昨年度比95%以上および合格率80%以上	英語検定の結果	第1回目6月 第2回目10月	B	B	B	B	昨年度受験者は67%で、受験者合格率は58%であった。2回目が中間テスト後で受験者が少なかった。	B	合格率の上昇が顕著である。学校が受験会場なので受けやすい。慣れた環境で本会場よりリーズナブルに受験できることは大きなメリット。	
豊かな心・健やかな体	生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣を軸に心身の健康を保持し、学習への意欲を高める。</li> </ul>	朝の遅刻、時間を大切にすることを意識を高める。睡眠時間と朝ごはんの大切さを保健の授業や集会などで啓発していく。	「学校へ遅刻することなく登校している。」「毎朝、朝ごはんを食べる」各項目肯定的評価80%以上 「毎日の睡眠時間」6時間以上80%以上	学校教育アンケート	年度末	A	A	それぞれ「遅刻をしない」88.0%、「朝ごはんを食べる」94.1%、「睡眠時間6時間以上」88.2%である。学年が上がると「朝ごはんを食べる」「睡眠時間6時間以上」が下がる傾向にある。	A	生活習慣のことは家庭の影響によるところが大きく、保護者の意識向上が必要。朝ごはんの大切さと睡眠時間は大事だと根気よく指導をお願いします。食べられない、眠れないの背景も気になります。基本的な生活習慣を送れる生徒が増えてほしい。学校で啓発してほしい。		
			心の教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳授業の実施と人権教育の充実</li> </ul>	道徳の時間を要として、他教科と関連させながら、計画的に道徳の授業を実施する。また教員全員が道徳授業を実施する。	「道徳・人権学習は自分のためになると思う。」肯定的評価80%以上	学校教育アンケート	年度末	A	A	「道徳・人権学習は自分のためになる」89.5%である。	A	いろいろな先生が道徳を担当し、生徒が意見を言ったりしているのがよい。
地域協働	信頼される学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ・tetoruからの情報発信。</li> <li>時間外滞在時間の減少。</li> <li>3小学校1中学校の連携。</li> <li>地域の幼稚園やこども園との連携。</li> </ul>			学年だより、学級通信、学校ホームページ等において学校の取り組みの様子を積極的に情報発信する。	「学年だより、学級通信、学校ホームページで学校の様子がよくわかる」の肯定的評価80%以上	学校教育アンケート	年度末	A	A	A	A	「学校の様子がわかる」88.9%である。
			仕事の計画性と効率化を図り、時間外滞在時間を減少させる。	時間外滞在時間が年間720時間を超える職員をなくす。	管理職が把握	年度末	B	B	B	B	12名が720時間超過水準であり、今現在8名が時間外80時間を超えている。	B	1月末現在、年間720時間水準は9名と減少し、時間外勤務80時間以上は増加していない。

<b>校長より(年度末)</b> コロナ前の状況を確認しつつ、学校行事・教員研修等、様々なことに取組みました。生徒に対してタブレットを用いた授業を積極的に取り組むため、教員がタブレットの運用において効率的かつ教科の特性に合わせて自主的に教材研究をおこなった。働き方改革に関しては、本校の時間外滞在時間平均が若干長くなっている傾向。さらなる役割分担の見直しや簡素化を勧め、改革を推進していく。各調査の好結果や人権作文・書写などの受賞など、生徒のがんばりや保護者・地域、教員の地道な指導の成果が表れたものだと考えています。次年度以降も未来の作り手となる豊かな学びの実現に努めてまいります。	<b>学校関係者評価者から(年度末)</b> 今後、さらなる改善に期待しています。自習時間になると黙々と一人取り組む生徒、グループで同じ教科を復習する生徒、担当教員に解き方を教わる生徒等学び方を変えて工夫していると思いました。自分たちの中学校時代とは異なり、教育の環境が難しくなっている中で、子どもたちを育む細かい計画と綿密な行動に敬意を表します。HPIに写真だけでなく、心のこもったコメント、ほめて育てるコメント、クラスの雰囲気や伝わってきます。私たちが、参観で教室に入ると、生徒は誰一人嫌な顔をせず、軽く頭を下げてくれたり、笑ってくれたり、また、困っていたら、手伝ってくれたりしました。
---	--